



雪と寒さに耐えてほころぶ梅

立教池袋高等学校

# 高校卒業生へ

留学のすすめ  
校長 鈴木 弘

卒業生諸君、おめでとう！また、ご子息のため、また学校のために多大なご尽力を戴きました保護者の皆様、ご子息のご卒業まことにおめでとうございませぬ。教職員を代表して、心よりお祝い申し上げます。さて、歴史を振り返れば、太平洋の眼を呼び覚ます黒船の来航後、日本は幕末期に入り明治維新を迎えました。そして一八七四年（明治六年）ウィリアムズ主教は、まさに日本の「グローバル化」の第一波と言うべき渦中で本校の礎を築きました。

それから約四十年、今まさにグローバル化の第二波が押し寄せています。世界では、交通や情報伝達技術の発達により、いわゆる「グローバル化」が急加速で進んでいます。当然のことながら経済市場や雇用においても、今まで以上に国境を越えた視点で行われる必要に迫られています。このような時代の流れは、ますます加速し止めることはできません。否が応でも国内外においてグローバル化が進みます。未来を担う君たちにとって、この時代に自信を持って生き抜いていくためには、どんな力をつけることが必要なのでしょう。か。

## 2013年度 立教大学被推薦者の英語条項

英検2級 (TOEFL, TOEIC 等も含む) 以上で認定	80%
英検準2級 (TOEFL, TOEIC 等も含む) + a で認定	20%

## 英語条項

今年度はTOEICに意欲的に取り組んだ生徒が多かったようです。百八名が認定され、このうち、英検二級（またはTOEFL・TOEIC等で同程度のスコア）以上の有資格者が八十六名となりました。高三全員を対象に行われたTOEIC (IP) やGTECにおいても大きな成果をあげました。

## 自己推薦

自己推薦は七項目あり三項目申請できるのですが、ほとんどの生徒が学業面と生活面から申請ができました。

## 今月の聖句

あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。  
(ヨハネによる福音書 13章34節)

## 2014年度 立教大学 推薦入学者数

学部	学科	専修	推薦枠	決定数
文	文	キリスト教	2	0
		教育	4	4
	文	英米文学	5	2
		フランス文学	2	0
		ドイツ文学	2	0
		日本文学	4	2
		文芸・思想	3	3
	史	日本史学	7	6
		世界史学		
		超域文化学		
計	29	17		
経済	経済	11	11	
	経済政策	6	6	
	会計ファイナンス	6	6	
計	23	23		
理	数	(2)	2	
	物理	(2)	2	
	化	(2)	0	
	生命理	(2)	3	
計	8	7		

※ 理学部は、各学科4名まで。ただし、理学部全体では8名まで。  
高3在籍127名中108名が推薦入学を希望し、108名全員の推薦入学が決まりました。なお、新座高からの推薦枠の使用はなく、池袋高からは観光学科1名、交流文化学科5名の推薦枠を新座高が使用しました。

学部	学科	推薦枠	決定数
社会	社会	5	5
	メディア社会	5	5
	現代文化	5	5
法	計	15	15
	法	13	13
	国際ビジネス法	4	4
	政治	4	4
	計	21	21
経営	経営	8	8
	国際経営	6	6
	計	14	14
観光	観光	6	5
	交流文化	6	0
	計	12	5
コミュニティ福祉	福祉	5	0
	コミュニティ政策	5	1
	スポーツウエルネス	4	0
現代心理	計	14	1
	心理	5	0
	映像身体	6	1
異文化コミュニケーション	計	11	1
	異文化コミュニケーション	4	4
	計	4	4
合	計	151	108

- 一〇一三年度高校受賞者
- サッカー記念賞 横尾 一塁 高橋 優輔
  - 佐藤 正晴
  - マカダム記念賞 森内 彩樹 笹瀬 聖人
  - 東京都体育優良賞 生松 剣也
  - 東京都文化活動優良賞 高橋 優輔
  - 学友会賞
  - 団体 吹奏楽部 早川 裕太 樋口 拓也
  - 三船 直人 安念 優輝
  - 高梨 健太 戸倉 悠介
  - 森内 彩樹 茨木 悠介
  - 数理研究部 尾関 伸之 横尾 一塁
  - 岡田 智之 大谷 崇史
  - 科学部・数理研究部 尾関 伸之 岡田 智之
  - 天文部合同チーム 高橋 優輔
  - ゴルフ部 佐藤 正晴 前田 航希
  - 水泳部 浅野 友軌 野崎 雄汰
  - 中津 力丸
  - 陸上競技部 青山 大海 櫻田 貴大
  - 堀内 啓生 小杉山諒一
  - 個人 高橋 優輔 (科学部)
  - 古川 智也 (科学部)
  - 西村 賢哉 (科学部)
  - 佐藤 正晴 (ゴルフ部)
  - 野崎 雄汰 (水泳部)
- ※ 精勤賞については卒業当日配布の式文をご覧下さい。

### 中三組 主任より

#### 贈る言葉

二〇一二年四月。中学校生活への期待を胸に入学式を迎えたことが、つい昨日のことのように思い出されます。入学時に君達に贈った言葉を覚えていませんか。

「夢を語れ」

「全力で挑戦しろ」

この三年間、私は君達と活動するときはいつもこの言葉を意識してきました。そしてこの三年間、君達はどのように過ごしてきましたか。

「紳士であれ」

語れる夢はあるか。全力を尽くしたか。紳士であったか。自分自身に問いかけてください。できなかったか。できなかったか。意識してきたか。どうかを。中学卒業という節目です。この時に考えたこと、感じたことを大切にしたいものです。そして今、卒業を迎えた君達にも一度この言葉を送ります。

Boys, be Ambitious  
Do Your Best, and it must be  
Be a Gentleman  
君達の新しい挑戦に期待しています。

(二組 後藤 寛)

#### 選択と決定

卒業の日を迎え、どの様な心境でいるだろうか。次のステージへの期待が胸がいっぱいだろうか。そんな君達の毎日には、夢と目標を達成できるきっかけが待っている。そのきっかけを作り出すことが、将来の道筋を決める鍵となるだろう。

毎日には選択を迫られる。きつかけが必ずある。どちらにするべきか、何を捨てようか。そして答えを決定して先に進んで行く。そのきっかけが何か、どこにあるのか、それは自分で決めるのだ。そして、その繰り返しの毎日には既に始まっている。どうか君達には、これから良い選択と決定を繰り返したい。卒業おめでとう。

(二組 梅野伸也)

#### そこで何をするのか

先日、将来の夢や目標は何かと、夢や目標を投げかけたところ、夢や目標が返って来なかった。変化が重なるに連れて、変化が重なるという理由で諦めてしまっている。夢や目標を決める上で大事なことは、可能性を立位置、順位、可能性など関係は、そこに進んでいくか、どこに進んでいくか、ということではないか。大事なのは、そこに進んでいくか、ということではないか。

中学を卒業し、これから君達は様々な面で、現実あるところ、夢や目標が返って来なかった。変化が重なるに連れて、変化が重なるという理由で諦めてしまっている。夢や目標を決める上で大事なことは、可能性を立位置、順位、可能性など関係は、そこに進んでいくか、どこに進んでいくか、ということではないか。大事なのは、そこに進んでいくか、ということではないか。

(三組 酒井一哉)

### 高三組 主任より

#### 「Freedom is not free」

これは「自由は自助努力により成り立つ」という格言です。我々が現在の日本生活の多くは、自由な先人の英知のおかげで、日本語、バイアスに満ちた情報、伝えられ、人間をロボットのようには操ろうとする状況があります。最近、メディア・リテラシーという用語がよく聞かれ、自由を守り抜く上で重要なコンセプトとなつています。フェイクニュースの情報が、まさに「真理の探究」であり、大局的に真理を追い求め、この世に貢献する事、それが立教の揺るぎない理念であり、自助努力による自由を守り、豊かな人生を歩まれる事を心より願っています。卒業おめでとう。(一組 小澤哲也)

#### 一廉の人間に成れ

君たちは、二〇一一年四月、東日本大震災の後に入学しました。当時は、震災直後の混乱が続く、計画停電もあり、自由のこの頃とが学校生活を送るといって、よく落ち着いたのは中期からでした。

そして、二〇一三年、いよいよ卒業式。いや、とうとうというべきでしょうか。思いは人それぞれいろいろあるけれど、私の思いは、一つです。

自分の力を磨くことはできたでしょうか。さらに一段上にあることができたでしょうか。その次のための契機が高校卒業であると思いませんか。努力を惜しまず自分の力で、自分の志を忘れずに、大きく成長して欲しいと願っています。卒業おめでとう。(二組 内田芳宏)

#### 是れ知るなり

卒業おめでとう。最後にやっぱ「論語」(孔子)の言葉を引用して話をしたい。私の目標でもある。「之を知るを之を知ると為し、知らざるを知らずと為し、是れ知るなり。(知つてを明確に分けることが、知ること。)」

知らないのに、知つたつもりで見過ごすことはやたらと多い。知ると、知らないを区別するのは簡単なことではない。区別できないか、もしも知らない。区別できたら、今度は知らないことに対する努力。努力について孔子の成長を重んじる孔子が努力を抜きに語るのは、謙虚さ、そして成長。

卒業する君たちにもぜひ「知る」を知ってください。(三組 永田真一)

### 中学一年便り

#### 「先輩」になるのダ!

あつという間に三月を迎えました。「二年生」と呼ばれるものも少し、もう一動的に「先輩」になりました。心構えは、準備は、できると思います。「先輩」と呼ばれるにふさわしい自分と改めようという気持ちで、本意の意味で先輩となれる自信のある人は、まだまだ少ないのではないのでしょうか。人の先に立って歩むこと、誰かに何かを教えることは、想像以上に難しいものです。

私は、先輩という立場が苦手でした。今でもそれは同じです。言われたことを言われた通りやる方が、ずっと楽だから。「先輩」は後輩の手本でなくてはならないし、目標とされる存在ではない、目標とも思わない。色々なことを教える必要はない、時に怒らなくてはならない、時には怒らなくてはならない、一歩前に進んでいかないことが急にならざるを得ない。君たちも、あと少しで立場が急変します。「一年生だから」「まだ知らないから」と許されることもなくなり、様々な場面の後輩たちから見られる存在になるのです。でもこれからは、「先輩」になることはたくさんあります。学生に限らず、仕事でも、趣味の世界でも、もしも知ったら外国の人の先輩になることだって、あるかもしれません。

初めから「いい先輩」になんてなれないはず。きつと上手いかならないことだらけでしょう。けれど「先輩」人生はずっと続くのです。から、練習あるのみです。来年からはその全く違う立場を楽しみながら、理想の「先輩」像に近づけるために自分を磨き続けてください。(廣瀬由紀)

### 中学二年便り

#### 修造の積み重ね

松岡修造という君たちはあの熱血ぶりを思い浮かべるだろう。周りの視線を気にすることなく自分の世界に入り込み、何事にもまっすぐに取り組む姿は時にこっけいに映ることさえある。

しかし彼は一九九六年のウィンブルドンテニス大会で、日本人男子としては六四年ぶりとなるベスト8進出を果たした。日本テニス界の頂点を極めただけでなく、世界に挑戦して輝かしい戦績を残した修造であるが、彼は自分の事を次のように言う。「自分にはテニスの才能は無い」と。

では彼の強さはどこにあったのだろうか。彼をよく知るある選手は、少年期の練習姿勢を高く評価する。大きく見開き、人一倍細かく足を動かし、声を発しながらボールを打ち、決して妥協しなかった。あまりにも過熱するその練習ぶりにもあきれられる者もいたのだが、彼はその姿勢を崩すことなく、世界のテニスを目標に、毎日ボールを追い続けた。そんな修造を知る選手は「テニスは才能じゃない」と言い切る。

さて、君たちも自分を誇れるような成果・自信を得たいと思っていることだらう。しかし、無目的に過ごしていただけでこれらを手に入れられるわけではない。修造の輝かしい成果の裏側には、高い目標と毎日の地道な積み重ねがあった。一四才になった君たちの自分探しの道にその姿を投影してみてもどうか。(重原康秀)

### 高校一年便り

#### 心の成長

四月から高校生としてどのような生活をしてきたのでしょうか。何を大切に、何を優先にしてきたのでしょうか。

学習面においては、当初学習に身が入らず、遊びを優先してテスト勉強を後回しにしたりする生徒が見受けられました。学校から常に学習を促して参りましたが、中期の中間テスト以降、放課後の教室を開放して欲しいと、自分達で学習会を開き、静かな環境で勉強を教えあう姿が見られました。

学習に対する前向きな姿勢が結果に繋がってきました。

次に生活面では反抗期も重なり、自分勝手な行動や悪乗りが目に残りました。更に集団生活のルールやマナーを軽んじることが当たり前のように見受けられました。一年間を通して、一つ一つの事を言い聞かせ正しい行動に移せる様に促して参りました。

掃除の時間ある生徒達と一流企業の社長達がトイレや玄関の掃除を、社長になってからもしているのは何故か? 「気づきの大切さ」について話をしました。それ以来ある生徒は必ず掃除終了後曲がっている机を直しているのです。私はそのような光景を見るたびに高校生としての自覚が芽生えて来ていると感ずるのです。

一歩一歩大人への階段を登り、今後も心の成長の瞬間を見せて欲しいと願っています。(西澤宏佳)

### 高校二年便り

#### ファイナルステージへ

日本との時差五時間ロシアン・ソチからのオリンピック中継で寝不足の毎日が続いた。一九七〇年の札幌の時にはスケート・スキー、そり系の競技で三十五種目であったが、今回のソチではスノーボード・フリースタイルスキーの種目や各競技に団体戦が加わり、九十八種目になり、観戦も大変になった。また、一番見どころの決勝の時間が、日本時間で午前二時から三時の時間帯であった。

しかし、一九六四年東京オリンピックからはじまりロス・ソチと現地に、観戦へ行くほどのオリンピック大好き人間としては、見逃すわけにはいかない。スノーボードのハーフパイプでは十五歳と十八歳若者二人がメダルを獲得した。フィギュアスケートでは十九歳が金メダルを勝ち取った。スキージャンプ四十一歳の大ベテランがジャンプで七回目の挑戦で銀メダルに輝いた。ほとんど、ライブ観戦できた。

ひとつ、ひとつの場面に感動した。勝った選手、負けた選手どの選手も四年に一度のオリンピックは特別の思いがあるようだ。その真剣な戦いの姿を見られるのは、どんなテレビ番組よりも、見ごたえがあった。

さて、高二の諸君、高校生活もファイナルステージが近づいてきた。四月から卒業までの一年間はあつという間に過ぎてゆく。最高学年の学友会活動・卒論・英語条項・自己推薦と最後のステージでは転ばず・軸をぶらさずしつかりパフォーマンスして欲しいと思う。(岸 博克)